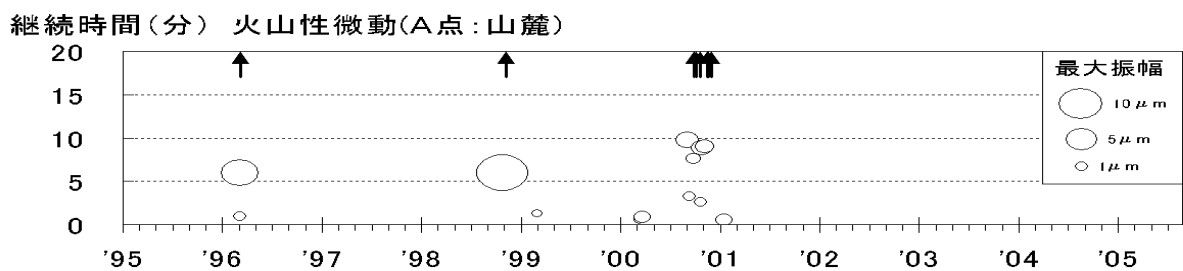
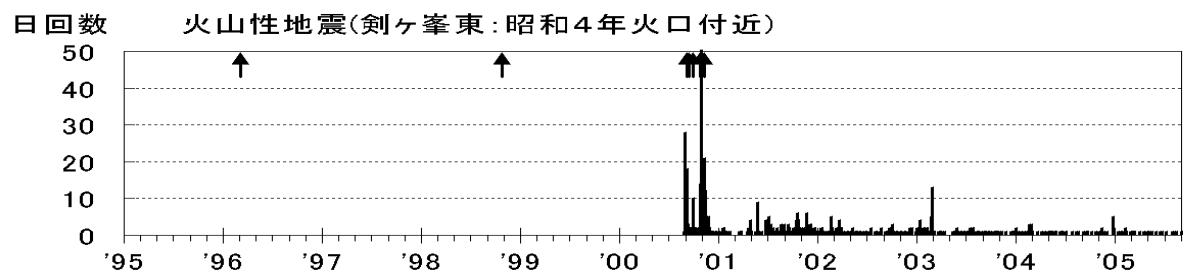
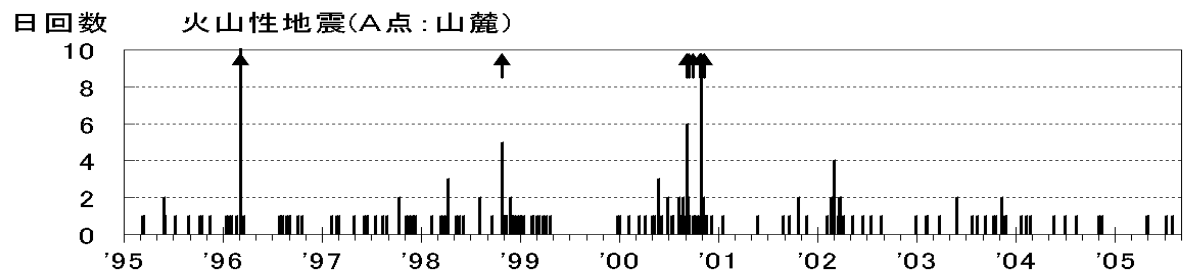
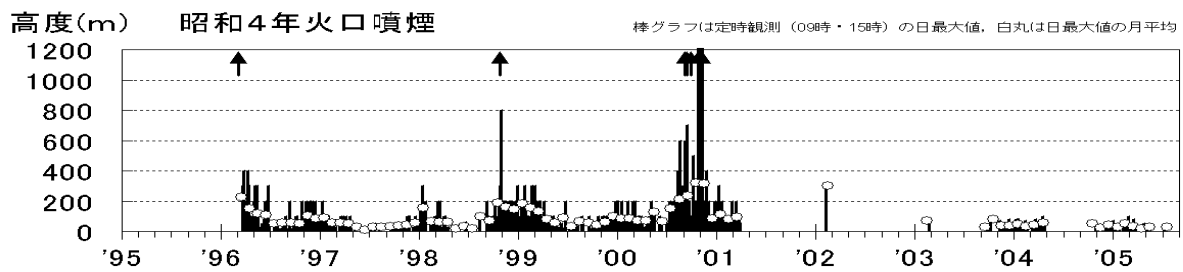
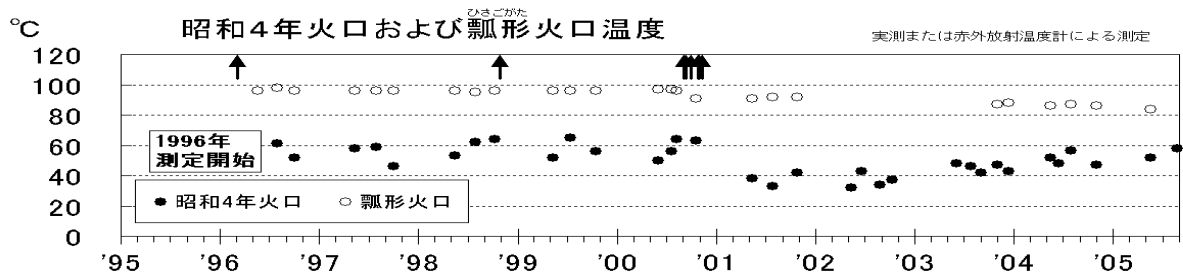


北海道駒ヶ岳

1 概況

火山活動は静穏に経過しています。わずかな山体膨張や、2003年9月以降見られている弱い噴気は引き続き観測されています。



最近の火山活動経過図(1995年1月1日~2005年8月31日) 印は噴火

2 噴煙の状況

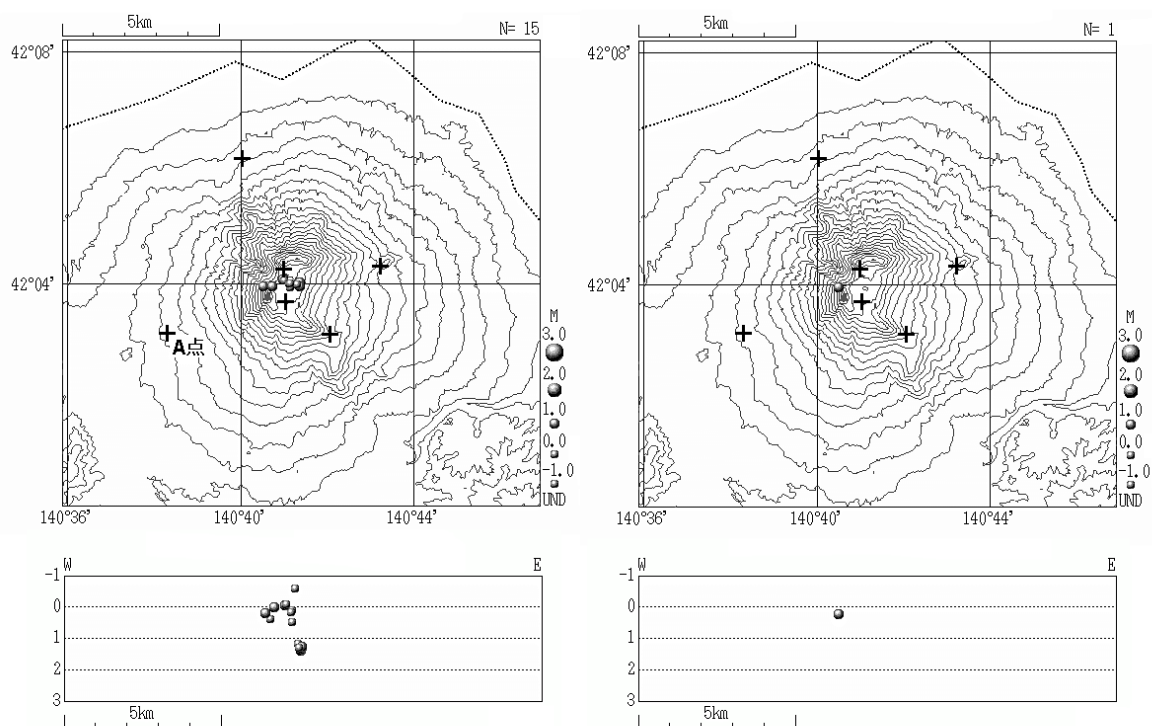
2003 年 9 月以降、昭和 4 年火口からの弱い噴気がしばしば観測されています。

3 地震の発生状況

今期間、A 点で観測された火山性地震はなく、山頂観測点で観測されるごく微小な地震も少ない状況でした。火山性微動は 2001 年 1 月以降観測されていません。

地震・微動の月回数（A 点）

2004～2005 年	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
地震回数	0	0	2	0	0	0	0	1	1	0	2	0
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



北海道駒ヶ岳の震源分布図（丸印：震源 + 印：地震観測点）

右図は今期間（2005 年 8 月 1 日～8 月 31 日）に求まった震源を示しています。

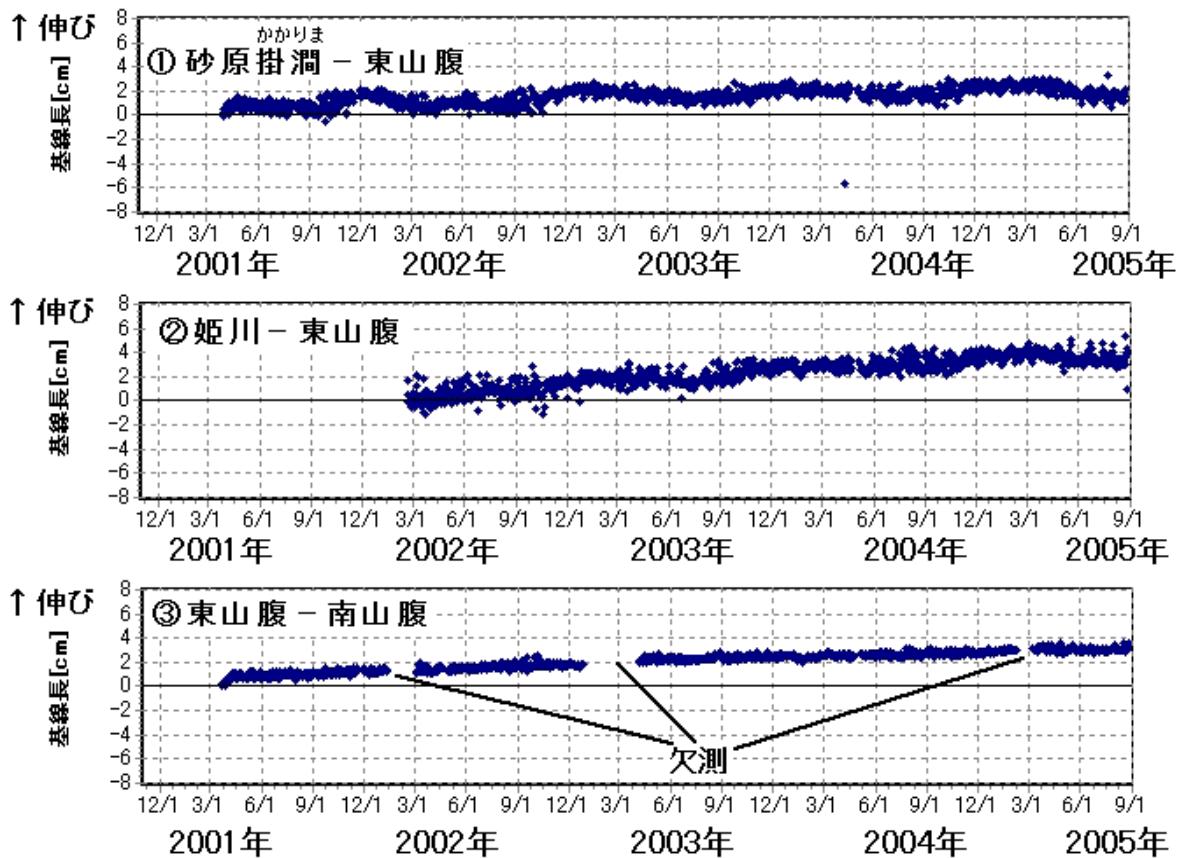
左図は前期間までの 11 ヶ月間（2004 年 9 月 1 日～2005 年 7 月 31 日）に求まった震源を示しています。

震源は大きく分けて山頂火口原直下の海面付近と海面下 1～2km に分布しています。今期間の震源もこの領域内に求まっています。

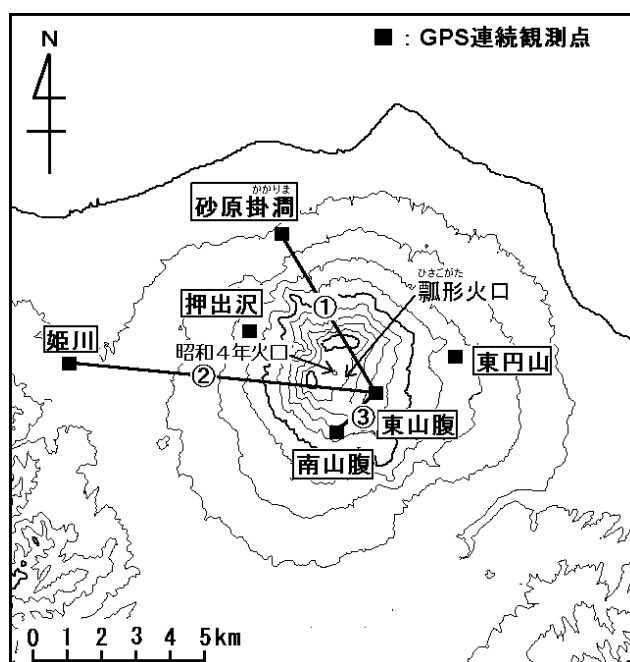
4 地殻変動の状況

GPS 連続観測では、季節変動の影響も見られますが、わずかな山体膨張を示す基線長の伸びの傾向が引き続き認められています。

23~25日に実施したGPS 繰り返し観測では、2004年に収縮から膨張へ転じた昭和4年火口を囲む複数の基線で、引き続きわずかに膨張する傾向が認められました。



基線長変化(2001年3月23日~2005年8月31日)



5 調査観測の結果

23～25 日に実施した調査観測では、昭和 4 年火口の熱活動に大きな変化は見られませんでした。

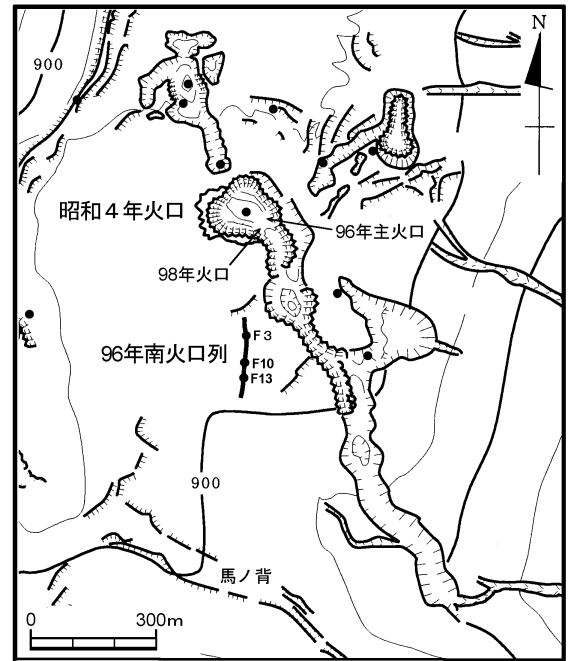
【昭和 4 年火口】

火口内の南側火口壁で弱い噴気活動が続いています。赤外放射温度計*で測定(測定距離約 120m)した火口温度の最高は約 58 で、前回(2005 年 5 月:約 52)と比べて大きな変化はありません。

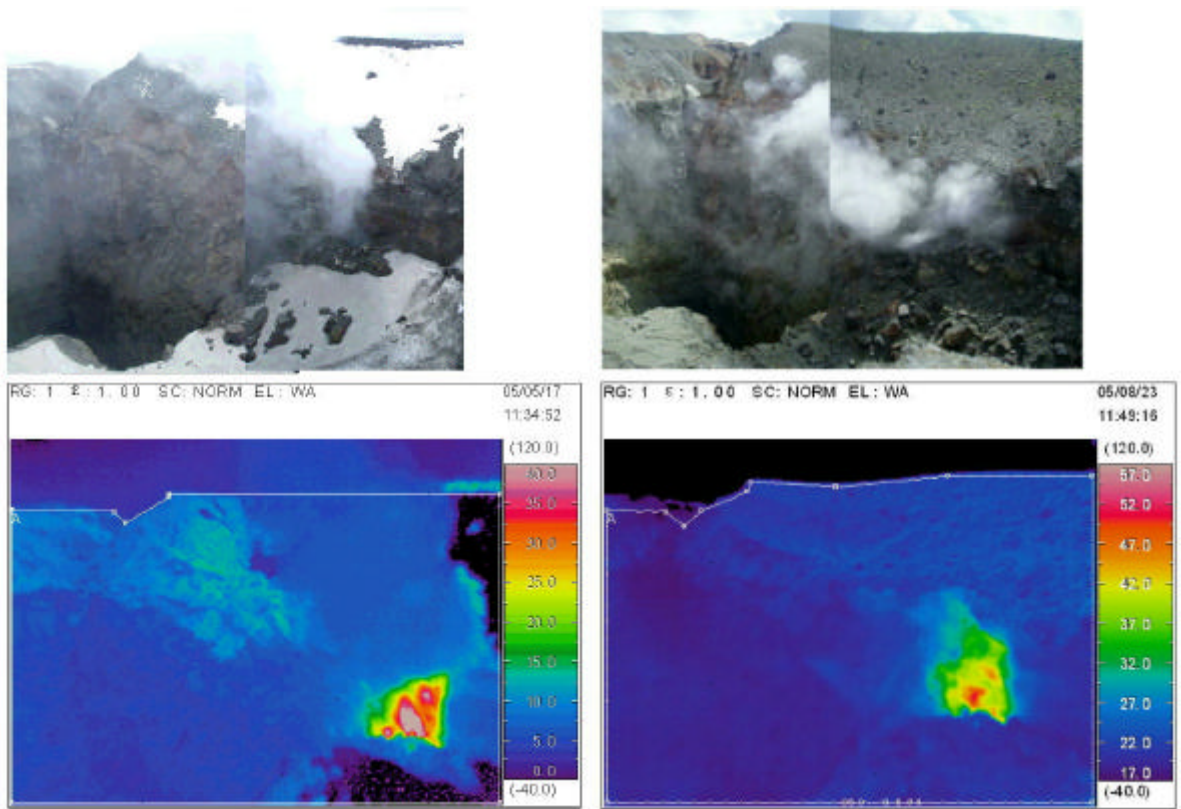
火口温度は 2000 年噴火以降、2001 年に一旦低下しましたが、その後緩やかな上昇傾向を示しています。

赤外熱映像装置*による観測では、南側火口壁の噴気以外に高温域は認められませんでした。

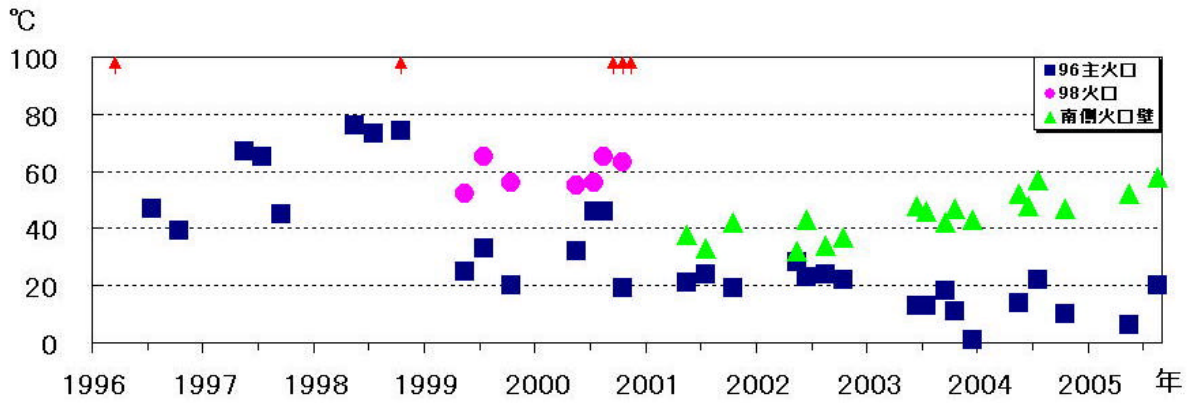
*赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。



駒ヶ岳山頂火口周辺図



北西側火口縁から赤外熱映像装置により測定した昭和 4 年火口内の表面温度分布
(左図：2005 年 5 月 17 日、右図：2005 年 8 月 23 日撮影)



赤外放射温度計による昭和 4 年火口における各領域の最高温度 : 噴火

【96 年南火口列】

火口列の所々で弱い噴気活動が続いています。火口列南側の噴気温度は低い状態が継続しており、火口列全体で見ると、熱活動は低下した状態が続いていると考えられます。

【その他の火口】

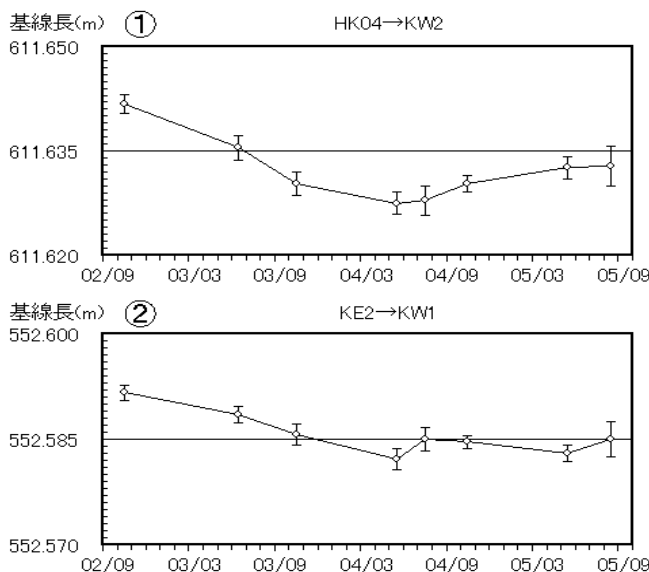
昭和 4 年火口周辺の瓢形(ひさごた)火口、繭形(まゆた)火口、明治火口でも弱い噴気活動が続いています。これらの火口の地熱域が拡大する傾向は見られません。

【GPS 繰り返し観測】

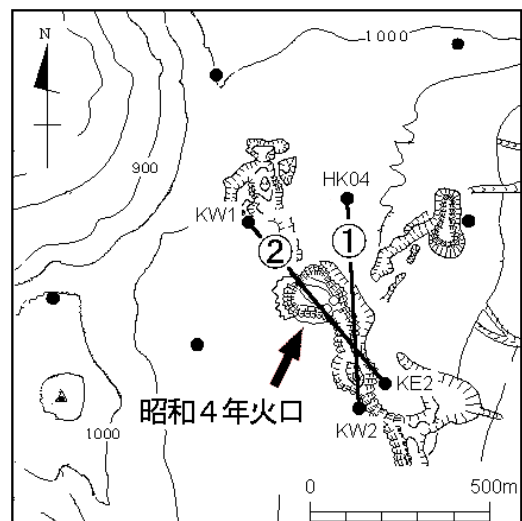
GPS 繰り返し観測では、昭和 4 年火口を囲む複数の基線で続いていたわずかな収縮傾向が 2004 年には反転し、わずかに膨張する傾向が認められました。今回の観測でも一部の基線を除き、その傾向が引き続き認められています。



96 年南側火口列南側の F13 噴気孔



昭和 4 年火口周辺の基線長変化



山頂 G P S 繰り返し観測点位置